

衝撃弾性波法など学ぶ

構造物の非破壊検査研修会

県コンクリ診断士会

県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）主催の非破壊検査研修会が29日、敦賀市長谷の若狭湾エネルギー研究センターで開催され、参加者は超音波法および衝撃弾性波法によるコンクリート構造物の診断に関する知識を学んだ。

はじめに非破壊検査社（大阪市）から招かれた講師が、それぞれの診断方法や特徴を説明。引き続き参加者が実際の機器

を使い、同センター内部の壁面を測定した。このうち衝撃弾性波法では、参加者が壁に30秒間隔でセンサーを取り付けた後、周辺に衝撃を加え、振動の伝わりから壁面の状況を確認していた。このほか、新ひび割れ計測システムおよび携帯

型詳細ひび割れ幅測定器のデモンストレーションが行われた。

同士会によると、06年度から国土交通省管轄の工事において、非破壊検査が義務付けられたことから、同研修会を企画している。



衝撃弾性波法による測定のもよう